

(第6条関係)

事業計画

	<table border="1"><tr><td>事業名</td><td>子どもたちがつくる青少年会館居場所事業</td></tr><tr><td>団体名</td><td>だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会</td></tr><tr><td>事業担当課</td><td>生涯学習推進課 青少年会館</td></tr></table>	事業名	子どもたちがつくる青少年会館居場所事業	団体名	だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会	事業担当課	生涯学習推進課 青少年会館
事業名	子どもたちがつくる青少年会館居場所事業						
団体名	だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会						
事業担当課	生涯学習推進課 青少年会館						
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>昨今、子ども（小学生）は保護者の就労や核家族化等により一人で過ごすことが多く、安心して過ごせる“居場所”が少なくなっている。</p> <p>松戸市社会教育計画策定の際「放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所」の調査によると、保護者のニーズとして回答の2/3近くを占める1位として「地域の公共施設」が挙がっており、また「安全」「近さ」といった要素が子どもの活動場所に求められている。</p> <p>このように、今後の松戸市の未来を担っていく人材育成のため、さまざまな体験を通じて仲間をつくり、仲間や地域の人たちと触れ合うことの出来る社会教育の時間と場所が必要とされている。</p> <p>他方、子どもの居場所に関して、「場所（空間）」だけを用意していても子どもたちがなかなか集まってこない、あるいは、学校のクラス数人の人間関係での遊びにとどまってしまう。子どもの成長には「時間」「空間」「仲間」の「サンマ（3つの間）」が大切と言われているが、松戸をはじめとする都心近郊の地域社会では、都市開発や防犯・遊びの産業化による変化によって、「サンマ」が得にくく、身の回りに少なくなっている。</p> <p>そこで本事業では、より仲間を広げたり、地域の人たちとふれあったりするため、体験を通じて子ども同士がつながる取り組みへの必要性に応える、市民と青少年会館が協働する本事業を提案する。</p>						
事業の目的	<p>H29年9月現在、協働事業1年目実施中の内容に引き続き、目的を、大きく3つに分けて掲げる</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 小学生同士のつながり・仲間づくりを目指す「サンマ」の提供(2) 子どもに関わる担い手育成による持続的なコミュニティ形成(3) 青少年会館という拠点を核とした世代間交流 <p>青少年会館（松戸市新松戸南2-2）で、小学生を対象とする放課後体験プログラムと、ロビーワークをセットで実施し、子ども同士のクラス・学年を超えた交流と仲間づくり、また、近隣高校・大学生との交流や、青少年会館利用団体の関係者を中心とした、大人との体験を通じた交流を図り、仲間づくり、社会教育の機会提供に努める。</p>						
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>①子どもに関わる担い手育成プログラム</p> <p>29年度に引き続き、青少年会館で開催する「子どもに関わる担い手発掘事業」と連携し、子どもの発達・育ちや人権について学んだ講座生からコミュニティを生み出し、事業の担い手を養成する。広報にあたっては近隣高校・大学への個別の声掛けと、子どもフェスティバルゲームリーダー・当日ボランティアへの声掛けを前記講座と併せて実施する。</p>						

②子どもとの体験プログラム&ロビーワーク

会館の事業スケジュールを下地に、3つの時期に分けて事業を実施する。
各期間、週2回程度、放課後時間帯を中心に予定している。

②-1 スポーツテーマ期間

夏休み期間＝7月下旬～8月末にかけて、青少年会館利用団体へ協力を依頼し、ロビーと体育館を一体として様々なスポーツ等に触れる体験を提供する。(卓球・バドミントン・体操・ダンス等)

次項の共同制作テーマに関係性をつなげるため、夏の企画としてグループでの調理イベントを開催し、集団形成につなげる。

②-2 共同制作テーマ期間

夏休み期間中に、一緒につくってみたい文化祭発表企画を募集、その実現に向けて準備する。お化け屋敷や迷路などを想定し、11/3の文化祭で発表を目指して共同制作を進める中で、ロビーでの新たなつながりを生み出す。

また、文化祭当日の看板等の制作も、プロ・セミプロで活躍している地域の大人を招き、本物に触れる体験と、自分たちでつくりあげる達成感が得られるようなプログラムとする。

②-3 アートテーマ期間

11月後半から、青少年会館利用の文化団体(演奏団体・演劇団体・版画等芸術団体)と連携・協働し、地域の大人との交流、自然には進みにくい同じ「場」の利用者間の交流を図る。

2月末に例年実施しているアートパフォーマンスまつりで展示できるよう、個人制作作品、共同制作作品を仕上げる過程で、自分達の居場所としての会館という感覚を持ってもらう。

2 スケジュール

	具体的な取り組み	対象
6月	広報・告知	
7月	①子どもに関わる担い手育成プログラム (青少年会館事業「担い手発掘講座」に続けて実施)	対象＝ 中学生以上
8月	②-1 スポーツテーマ (夏休み期間 週3回・2時間程度)	対象＝ 小学生、 中学生
9月	②-2 共同制作テーマ	
10月	(週1,2回、1～2時間)	
11月	11/3 青少年会館文化祭で発表	
12月	(クリスマス会の実施)	
1月	②-3 アートテーマ	
2月	(週1回、2～3時間)	
3月	2月末 アートパフォーマンスまつりで発表	

協働の必要性	<p>これまで青少年会館では多様な講座（青少年教室）を実施しているが、会館の日々の利用の中で、なかなかロビーにいる小学生への関わり（ロビーワーク）が気になっていても関係づくりまで事業化できていなかった。</p> <p>本事業の提案者「だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会」は、市内の子どもに関わる事業を展開している NPO が連携・協働している団体である。松戸市内の子どもたちに向けたイベントを年 1 回のペースで開催して来たが、各団体が特色のある遊び（エコトンボづくり、新聞の海、皿回しなど）を持っていたり、学生～若者に依る企画や、当日学生ボランティア（前回実績 100 名超）の運営に強みを持っていたりする。</p> <p>青少年会館という場所と、実行委員会の各団体のプログラム・ソフトを組み合わせることで、29 年度夏休みは参加者数・リピート率に大きな成果を上げており、居場所としての定着から、行政・NPO 双方が目指す子どもの育ち、次世代育成のコミュニティ形成につながると考えている。</p>
事業実施の役割分担	<p>①団体 全体企画・運営（当日）、ボランティアコーディネート、活動消耗品の手配、チラシ・ポスター等広報物作成、事業報告書制作</p> <p>②担当課（生涯学習推進課 青少年会館） 参加者受付・集計（啓発用イベントで事前受付のもの）、文化祭用看板関連材料提供、スポーツ・アートの会館利用団体の紹介・講師協力調整、チラシ等の簡易印刷、アンケート等集計、会場確保</p>
既存の事業からステップアップした部分	<p>①子どもに関わる担い手育成プログラムにおいては、土曜の講座としたことで、子どもに関わる教職課程等を取っている学生が参加しづらい状況があったため、実施日時を学校等と情報把握・連携し、参加者増、及びスタッフ巻き込みの増加を図る。</p> <p>②子どもとの体験プログラム&ロビーワークでは、H29 夏に実施したことで、会館の利用団体とのつながり・参画が生まれた。技術を教える「講座」より、関係性を重視した「居場所」としてのプログラムの質の向上を図る。</p>
事業の目標	<p>①子どもに関わる担い手育成プログラム 講座定員を 50 名として実施し、継続的に本事業に加わるボランティアを 8 名程度確保する。</p> <p>②子どもとの体験プログラム&ロビーワーク 定期的に参加し、興味を持つ小学生、互いの「顔が見える」関係の参加者が 10 人程度となるよう、支えていく。</p> <p>本プログラム参加者を「青少年会館キッズメンバー」として登録、登録者全体が 50 人程度を目指す。</p>
今後の展望	<p>学生の担い手について、受講生とのコミュニケーションを図るとともにコミュニティ形成に努め、市内の青少年育成事業に様々関わっていきけるような関わりを目指す。また、スポーツ・アートテーマで関わった青少年会館利用団体が、普段の参加者だけではなく、より広く子どもたちと関わっていくことで、子ども・団体双方の「社会化」を促す。また、制作プログラムについては、初年度の実績を元に、会館の掲示や装飾などへ展開していく。</p>

(第6条関係)

事業の予算計画 (収支予算書)

【労力換算 (限度額算入)】

(単位:円)

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 327,538	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	子ども実費負担	¥ 15,000	500円×30人、夏休み啓発イベント
		¥ 8,000	200円×40人、クリスマス会
	自己資金の合計額 (B)	¥ 23,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 190,000	
	合計額(D)=(B+C)	¥ 213,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 30,000	研修会講師謝金 (1名)
		¥ 15,000	夏休み啓発イベント謝金 (1000円×15団体予定)
	消耗品費	¥ 50,000	模造紙・付箋紙等会場掲示物作成、コピー用紙等
		¥ 10,000	調理体験・食材
		¥ 20,000	工作等材料費
	食糧費	¥ 10,000	協力講師・ボランティアお茶代等
	印刷製本費	¥ 63,000	チラシ(カラー表裏)7000枚×3回
		¥ 15,000	研修&ボランティア募集5000枚
	対象経費の合計(E)	¥ 213,000	
(その他経費)			
	その他経費の合計額(F)	¥ 0	
	合計額(G)=(E+F)	¥ 213,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×842円
	会館との打ち合わせ (10回)	50,520 円	3 人 × 2 h × 10 回 × 842 円
	夏休み子ども活動日 (単独)	98,514 円	3 人 × 3 h × 13 回 × 842 円
	夏休み子ども活動日 (連携)	25,260 円	2 人 × 3 h × 5 回 × 842 円
	平日子ども活動日 (単独)	55,572 円	3 人 × 2 h × 11 回 × 842 円
	平日子ども活動日 (連携)	50,520 円	2 人 × 2 h × 15 回 × 842 円
	クリスマス会	16,840 円	5 人 × 4 h × 1 回 × 842 円
	チラシ制作	10,104 円	1 人 × 6 h × 2 回 × 842 円
	報告書制作	20,208 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
	合 計 (A)	327,538 円	